

看護学部の自己教育力を育む縦断的合同学修会の有効性

上山 和子*・金山 時恵・磯本 暁子・古城 幸子

新見公立大学看護学部

(2014年11月19日受理)

本研究は、学士課程における看護基礎教育の縦断的学修方法について検証した。その結果、学年間の交流の機会となり、相談しやすいサポート体制の一面をもつことが明らかになった。今後も継続して縦断的合同学修会の有効性について検証していく必要がある。

(キーワード) 看護基礎教育, 学士課程, 縦断的学修方法, ピアサポート, 自己教育力

I. はじめに

大学教育における初年次教育は、中等教育から高等教育の移行に伴う準備教育として取り入れられている。中央教育審議会は、高等教育の一環として主体的に学ぶ力の育成を目標として掲げている¹⁾。学士課程における看護基礎教育としては、主体的に学習すること、専門職として人間力を育成することが基盤となる。

A大学看護学部では、正規科目として初年次教育に基礎ゼミナールを取り入れている。これは、1年次の前期に開講している科目で同一学年を対象に少人数のゼミナール方式として実施している。

一方、年度当初に看護基礎教育課程の縦断的な学修方法として、自ら学んでいく力を育成することや、相談しやすい環境づくりとして、2013年度より1年次から4年次までの合同学修会の導入を試みた。

合同学修会の目的としては、学年間の交流を深めること、直接看護の先輩に話を聞くことにより学修生活のイメージを図ること、先輩との関係づくりとその後のサポート、先輩は後輩に教えることにより自ら学ぶ力を育むことや、今までの学修生活を振り返る機会となる。

本研究では、主体的に看護学の学修を進める一つの方法として1~4年次の合同学修会の有効性を検討し、教育方法への示唆を得ることを目的とする。

II. 研究方法

1) 研究デザイン：調査研究。2) 研究対象：A大学看護学部の合同学修会に参加した1~4年次生。3) 研究方法：合同学修会の効果について4項目の質問紙調査および学修会への希望の自由記述。4) 分析方法：調査項目別

に記述統計にて算出した。自由記述は、内容分析した。

5) 倫理的配慮：対象者に研究目的、匿名性が完全に確保されること、調査書の提出を持って同意を得たとした。

III. 縦断的合同学修会の概要

入学式後の4月に1~4年次生を対象に、1グループ各学年2名ずつの8名からなるグループを編成し、全体として32グループで運営する。予め、司会者を決め、自己紹介から運営を展開していく。

内容としては、①学習生活、②学習の進め方、③専門科目の学習の進め方、④看護援助技術の進め方、⑤実習前の事前学習、⑥実習の進め方、⑦国家試験に向けての学習方法などである。予め1~3年次の学生は、質問項目の内容を検討していき、発言の準備をする。上級学年では、司会を担当し、学修会の運営展開を検討していく。教員は、ラウンド形式で相談にのり、司会者の負担軽減を図る(図1・2)。

2013年度の運営は、看護基礎教育課程の平成20年改訂カリキュラム²⁾による学習進行中の3・4年次生、平成24年改訂カリキュラム³⁾による学習進行中の1・2年次生に分かれグループ編成を行った。これはカリキュラム編成

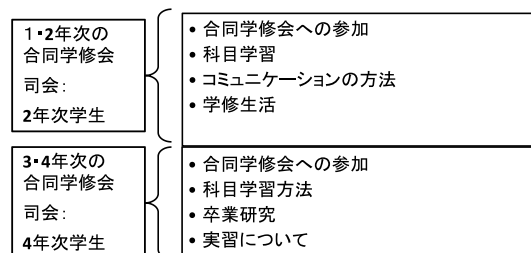


図1 2013年度の看護学部合同学修会の内容

*連絡先：上山和子 新見公立大学看護学部 718-8585 新見市西方1263-2

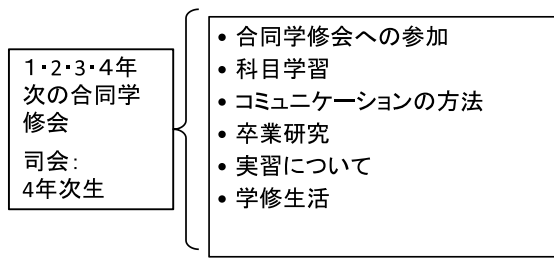


図2 2014年度合同学修会の内容

の違いにより、相談内容が異なってくるのが予想されたためである。

2014年度は、1～4年次の4学年を同じグループとして編成した縦断的学修方法として変更した(図3・4)。

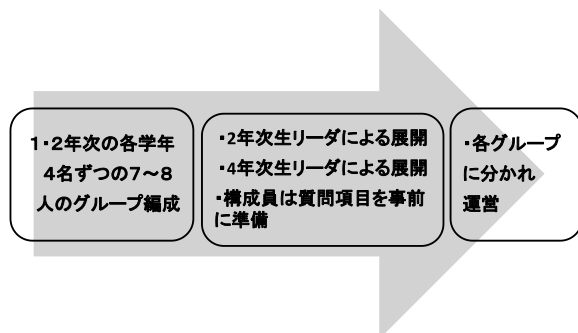


図3 2013年度合同学修会の展開方法

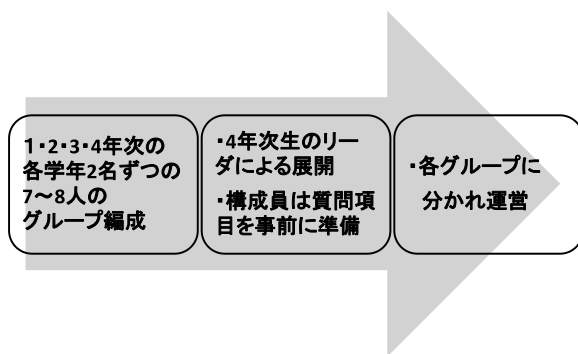


図4 2014年度合同学修会の展開方法

IV. 結果

1. 2013年度の合同学修会の内容

2013年度は、1・2年次生、3・4年次生の2学年合同の学修会であった。1～3年次生は、合同学修会を終えて「学修会へは参加して良かった」「学年を超えて交流が深まった」「先輩・同級生・後輩の話は参考になった」の3つの項目について9割以上は良かったと回答していた。4年次生は、3項目とも8割で良かったと回答していた。

どの内容が参考になったかでは、1年次生は、『科目の

表4-1 2013年度A大学看護学部合同学修会アンケート結果

項目	1年次生 n=59			思わない
	大変思う	思う	あまり思わない	
合同学修会に参加して良かった	80%	20%	0	0
学年を超えて交流が深まった	53%	47%	0	0
先輩、同級生の話は参考になった n=57	84%	16%	0	0
どの内容が参考になった(複数回答)	科目学習方法(人体構造学・人体機能学など)	科目の学習方法(援助技術論など)	コミュニケーション方法	その他
	52%	15%	14%	19%

表4-2 2013年度A大学看護学部合同学修会アンケート結果

項目	2年次生 n=58			思わない
	大変思う	思う	あまり思わない	
合同学修会に参加して良かった	28%	72%	0	0
学年を超えて交流が深まった	28%	72%	0	0
先輩、同級生、後輩の話は参考になった	21%	79%	0	0
どの内容が参考になった(複数回答)	科目学習方法(人体構造学・人体機能学など)	科目の学習方法(援助技術論など)	コミュニケーション方法	その他
	24%	41%	11%	24%

表4-3 2013年度A大学看護学部合同学修会アンケート結果

項目	3年次7生 n=53			
	大変思う	思う	あまり思わない	思わない
合同学修会に参加して良かった	55%	45%	0	0
学年を超えて交流が深まった	34%	62%	4%	0
先輩、同級生、後輩の話は参考になった	74%	26%	0	0
どの内容が参考になった(複数回答)	科目学習方法	実習に向けて	卒業研究に向けて	国家試験に向けて
	17%	28%	47%	8%

学習方法(人体構造学・人体機能学)』(52%)、2年次生は、『科目の学習方法(援助技術論)』(41%)、3年次生は、『卒業研究に向けて』(47%)、4年次生は、『実習に向けて』(50%)が最も参考になったと回答していた(表.4-1・4-2・4-3・4-4)。

2. 2014年度の合同学修会の内容

2014年度では、1～4学年合同の学修会であった。1年次生は、「学修会へは参加して良かった」「学年を超えて交流が深まった」「先輩・同級生・後輩の話は参考になった」の3つの項目について全員が良かったと回答していた。2～4年次生も9割以上は良かったと回答していた。

どの内容が参考になったかでは、1年次生は、『科目の学習方法(人体構造学・人体機能学)』(35%)、『実習に向

表4-4 2013年度A大学看護学部同学修会アンケート結果

項目	4年次生 n=56			
	大変思う	思う	あまり 思わない	思わない
合同学修会に参加して良かった	14%	72%	12%	2%
学年を超えて交流が深まった	12%	78%	6%	4%
先輩、後輩の話は参考になった	9%	80%	9%	2%
どの内容が参考になった(複数回答)	科目学習方法	実習に向けて	卒業研究に向けて	国家試験に向けて
	24%	50%	6%	10%

けて』(26%)、2年次生は、『実習に向けて』(57%)、『卒業研究に向けて』(18%)、3年次生は『卒業研究に向けて』(20%)、『科目の学習方法(人体構造学・人体機能学)』(20%)、『国家試験に向けて』(18%)、『実習に向けて』(17%)、4年次生は、『実習に向けて』(41%)、『卒業研究に向けて』(38%)、『国家試験に向けて』(18%)などであった。学生の参考になった項目の特徴として、1年次生から実習に関心を持っており、3・4年次生では項目が多岐に亘っていた(表.5-1・5-2・5-3・5-4)。

表5-1 2014年度A大学看護学部同学修会アンケート結果

項目	1年次生 n=62			
	大変思う	思う	あまり 思わない	思わない
合同学修会に参加して良かった	85%	15%	0	0
学年を超えて交流が深まった	60%	40%	0	0
先輩、同級生の話は参考になった	85%	15%	0	0
どの内容が参考になった(複数回答)	科目学習方法(人体構造学・人体機能学など)	科目の学習方法(援助技術論など)	コミュニケーション方法	実習に向けて
	35%	10%	10%	26%
	卒業研究に向けて	国家試験に向けて	その他	
	4%	7%	8%	

表5-2 2014年度A大学看護学部同学修会アンケート結果

項目	2年次生 n=56			
	大変思う	思う	あまり 思わない	思わない
合同学修会に参加して良かった	53%	45%	0	2%
学年を超えて交流が深まった	50%	45%	5%	0
先輩、同級生、後輩の話は参考になった	70%	30%	0	0
どの内容が参考になった(複数回答)	科目学習方法(人体構造学・人体機能学など)	科目の学習方法(援助技術論など)	コミュニケーション方法	実習に向けて
	3%	4%	6%	57%
	卒業研究に向けて	国家試験に向けて	その他	
	18%	8%	4%	

表5-3 2014年度A大学看護学部同学修会アンケート結果

項目	3年次生 n=54			
	大変思う	思う	あまり 思わない	思わない
合同学修会に参加して良かった	85%	15%	0	0
学年を超えて交流が深まった	60%	40%	0	0
先輩、同級生の話は参考になった	85%	15%	0	0
どの内容が参考になった(複数回答)	科目学習方法(人体構造学・人体機能学など)	科目の学習方法(援助技術論など)	コミュニケーション方法	実習に向けて
	20%	5%	20%	17%
	卒業研究に向けて	国家試験に向けて	その他	
	20%	18%	0%	

表5-4 2014年度A大学看護学部同学修会アンケート結果

項目	4年次生 n=56			
	大変思う	思う	あまり 思わない	思わない
合同学修会に参加して良かった	35%	63%	2%	0
学年を超えて交流が深まった	23%	77%	0	0
先輩、同級生の話は参考になった	47%	53%	0	0
どの内容が参考になった(複数回答)	科目学習方法(人体構造学・人体機能学など)	科目の学習方法(援助技術論など)	コミュニケーション方法	実習に向けて
	0	1%	1%	41%
	卒業研究に向けて	国家試験に向けて	その他	
	38%	18%	1%	

3. 2013年度・2014年度の自由記述内容

自由記述の内容として2013年度では、“学年間の交流の機会が少ないので良い機会となった”などが挙げられていた。2014年度では、上級学年で“初心に戻って学修する機会になった”などが挙げられていた(表.6-1・6-2)。

表6-1 2013年度自由記述の主な内容

学年	主な内容
1	・もう少し話し合う時間がほしい
2	・交流する機会ができて良かった ・1年生をみてもう1回初心に帰って頑張ろうと思った
3	・話し合う時間が少し足りない ・色々な意見を聞けて良かった
4	・教員も同室して4年生も質問できるようにしてほしい ・採用試験について聞きたい

表6-2 2014年度自由記述の主な内容

学年	主な内容
1	・先輩の話を直接聞くことで、これからの学習の参考になった ・先輩方が実習や国家試験について真剣に話され、自分も将来こうなりたいと思った
2	・1年生が質問しやすい項目をもう少し増やした方がよい ・学年で分けたら話しやすい
3	・実習、卒業研究、国家試験について、今、聞けて良かった ・昨年の1・2年だけより、全学年でやった方がよい
4	・1年生は1週間ぐらい授業が始まったからが良いのではないかと ・1~4年生で集まるのは初めてで親交が深まると思う

V. 考察

看護学部の縦断的合同学修会のアンケート調査を分析した結果、1～3年次生にとっては、直接先輩により学修内容を聞く機会となり、どの質問項目も9割以上は良かったと回答しており、効果があったと考える。特に課外活動など4年間の学生生活の中で学年を超えて交流する機会のない学生にとっては、学年間の交流を図る機会となり、その後の学修生活を相談するきっかけ作りとなることで、調整能力など自己教育力を育むことに繋がっている。

合同学修会の目的として、同学年の交流だけでなく他の学年を通じて看護学についての理解を深め、学修の進め方、履修方法、実習に向けて、国家試験に向けての準備など、それぞれが関心を持っていること、学修で困っていることについて助言を受けることや、意見交換をすることで主体的に学ぶ機会になると考える。佐藤は、学習の動機づけとして、教室における社会的相互作用の中で、聞き役に回っているものも理解に向けての活動があると述べており、相互に学習する意味の大切さを説いている⁴⁾。

このことより、相互教授の方法としてのグループ学習は、主体性を発展させる学習方法の一つとして効果が期待される。

上級学年である4年次生は、学年間の交流の機会になったと回答しているも、司会などの負担があるためか他の学年に比べてどの質問項目も合同学修会の有効性については低い。しかし、4年次生として1年次生が質問をしやすように配慮するなどの試みもされており、意識して運営を考えていると推察される。教員側の役割としては、4年次生の意識を尊重しつつ司会などの負担軽減を図り、円滑な運営に繋がっていくようにサポートしていくことが求められる。

教授方法としては、上級学年にとって学年間の交流により自己の学修形態を振り返ることで多様な視点をもつことができ学習理解が進むよう、支援していく必要がある⁵⁾。また、上級学年では、『初心に戻って学修する機会になった』と回答しており、このような振り返りは看護学を改めて考える機会になり、学習を深化させ自己教育力を育成する一つの手段になると考える。

今後の課題として、学士課程における看護基礎教育についての縦断的合同学修会の有効性について学生の意見を聞きながら、主体的に看護学を学んでいけるよう、さらに有効な運営方法を検討していきたい。

謝辞

本研究にご協力をいただいたA大学看護学部の学生に感謝致します。

文献

- 1) 中央教育審議会：「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」答申、2012.
- 2) 新見公立大学看護学部看護学科：平成24年度新見公立大学看護学シラバス、2012.
- 3) 新見公立大学看護学部看護学科：平成25年度新見公立大学看護学シラバス、2013.
- 4) 佐藤公治：第9章学習の動機づけ・社会的な文脈、認知心理学5学習と発達、東京大学出版、221-251、2001.
- 5) 杉森みどり、舟島なをみ：看護教育学第5版増補版、医学書院、209-213、2014.